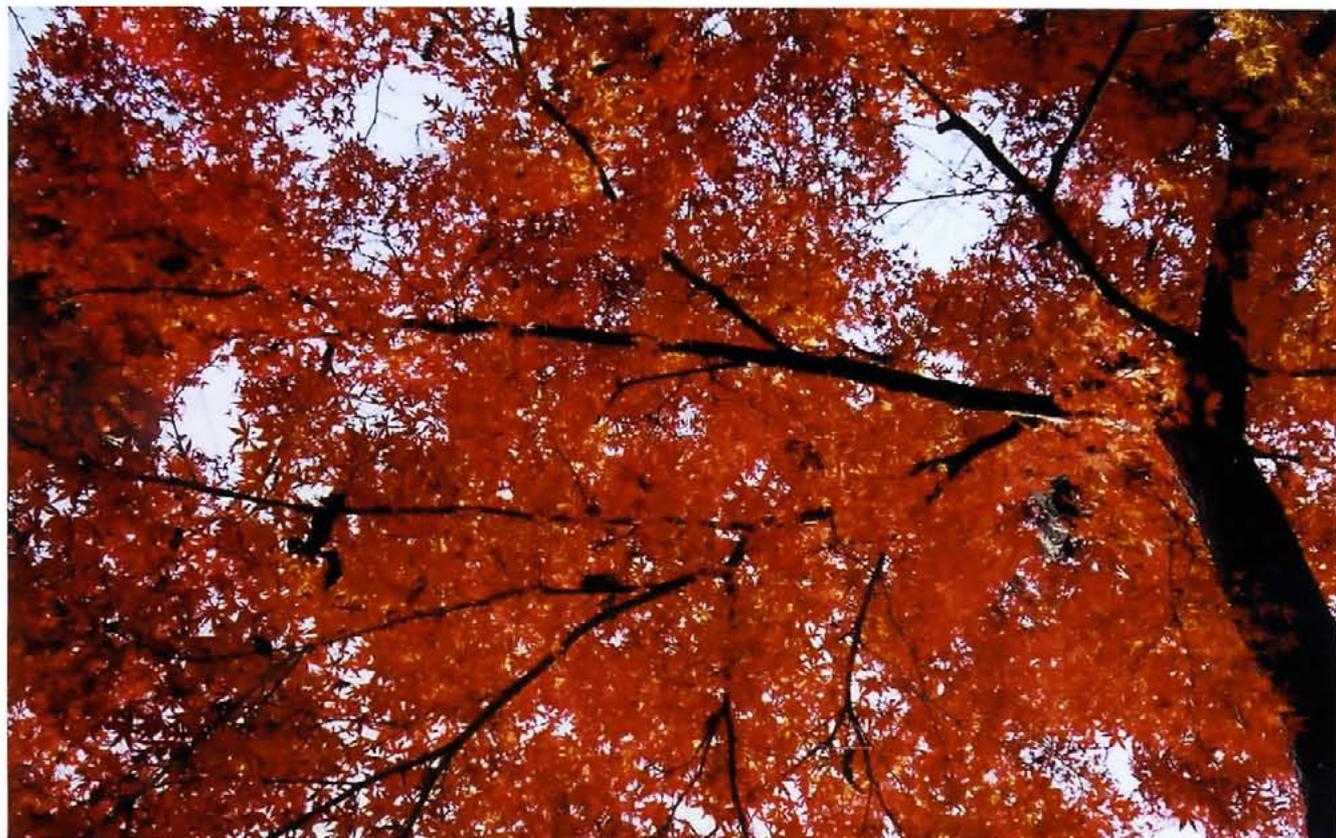


# 月刊 まつなみ

平成19年  
11 November  
月号  
No97



安心は一人ひとりが責任者

どこにも秋がある

ゆれてるすすきに 秋がある  
 さらりとしている 秋がある  
 とびたつイナゴに 秋がある  
 さびしいみどりの 秋がある  
 友と歩く 友と歩く 秋がある  
 その足音にも 秋がある  
 誰かを呼ぶ手に 秋がある  
 答える返事に 秋がある  
 流れる小川に 秋がある  
 浮いてる木の葉に 秋がある  
 友と唄う 友と唄う 秋がある  
 その唄声にも 秋がある

### 理念

私たちは、地域住民の皆様に、安全で質の高い医療・福祉を効率的かつ継続的に提供する

### 基本方針

私たちは、地域中核病院を有する法人として、医療環境の変化に対応した質の高い保健・医療・福祉サービスの提供を通じて地域社会と共に発展をめざします

私たちは、患者様や利用者の方のプライバシーを守るとともに、権利を尊重し根拠に基づいた医療・福祉サービスを提供できるよう努力します

私たちは、経営の安全と組織の活性化を図ることにより、職員の仕事が安定し、職員の生活が安定し向上するよう努力します

### 目次

- 不随意運動に対する外科的治療の紹介
- 認定看護師の活動  
11月のお知らせ
- 外来基本診療体制

松波総合病院ホームページ

<http://www.matsunami-hsp.or.jp/>

## 不随意運動に対する外科的治療の紹介

脳神経外科医長 八十川 雄図

10月より当院に赴任となりました脳神経外科の八十川（やそかわ）です。私は脳梗塞や脳出血といった脳血管障害を中心に、脳神経疾患全般を担当しております。

今回は、手のふるえやすくみ足、動作緩慢や顔面けいれん、四肢体幹のねじれ・傾きなどといった不随意運動に対する外科的治療に関する話をさせていただきます。

不随意運動は、MRIなどの進歩した画像診断法を用いてもはっきりとした原因が見出せないことが少なくなく、また、心理状態の変化にも影響を受け症状の増減がみられることが多いため、その治療は今でも内服・注射などの薬物療法が主体です。しかし、薬物療法を長期間受けてこられた方の中には、薬物が効かなくなってきたり強い副作用がみられたりすることがあります。

近年、不随意運動の発端となった症状と薬の副作用による症状に苦しんでおられる方に対し、外科的治療を行うケースが多くなってきました。手術をすることで患者さんの症状緩和や家族の方への身体的・精神的負担の軽減が見込めるケースがあります。手術の内容は疾患・症状により異なりますが、脳脊髄に薬剤や電気刺激を送る装置を体内に植え込んだり、神経・血管の位置を動かしたり神経を細くしたりします。

ただし、不随意運動の中には外科的治療が可能な病態とそうでない病態、または外科的治療が必要なく内服や注射による薬物治療が最良の治療とされる病態がありますので、しっかり話を聞かせていただき、検査させていただく必要があります。また、本人や家族の方が望まれる程の症状改善が見込めない場合もあり、十分相談をさせていただいてから手術をするか否かを決める必要があります。

興味をお持ちの方がおられましたら、私の外来までどうぞお越しください。





# 認定看護師の活動



(社) 日本看護協会認定  
がん性疼痛看護認定看護師 小園 典子

がん性疼痛看護認定看護師の小園です。わたしは神奈川県立保健福祉大学で半年間の研修を受け、今年7月にがん性疼痛看護認定看護師の資格を取得しました。

認定看護師って何？と思われる方も沢山いらっしゃると思いますが、認定看護師は日本看護協会によって認められた、各専門分野において熟練した技術・知識を持ち、高い水準の看護を行うことができる看護師です。

当院には、他にも摂食・嚥下障害看護と糖尿病看護の認定看護師がいます。

わたしの専門はがん性疼痛看護で、主にがんによる痛みやそれ以外の苦痛を伴う症状などに対して、看護の立場から緩和できるように働きかけていく役割を担います。患者さまやそのご家族が抱えていらっしゃる様々な苦痛を理解し、それに基づく問題点を他の医療従事者とも相談しながらケアを検討し提供していくことで苦痛を和らげ、患者様やご家族の生活がより良いものになることを目標としています。

近年、がんの検査・治療は高度化し以前のような不治の病というイメージは薄れてきました。がんを克服する、もしくは上手く共存する方法はたくさんあります。しかし、前向きに治療に臨んでいたため、また自分らしさを取り戻していただくためには治療と同時にがんそのものや、がんの治療に伴う苦痛を取り除くことが大切です。痛みをはじめとする苦痛は、身体だけでなく精神面にも大きく影響を及ぼします。イライラしたり、気分が沈みがちになる、あるいは夜眠れない、食欲がなくなったということもあるでしょう。このような状況が長く続くと、治療に対する意欲が持たなくなったり、ご家族の不安も強くなります。そういった問題を解決するためにも苦痛の緩和は重要であると言えます。

当院では、医師をはじめとし薬剤師、看護師、メディカルソーシャルワーカー、理学療法士、栄養士などからなる緩和ケアチームがあります。苦痛となる症状があるとき、薬について分からないことがあるとき、在宅での療養に不安を感じる時、誰かに話を聞いて欲しいとき、気分が落ち込んだり不安なときなど、緩和ケアチームと主治医や担当看護師が協力し患者さまやご家族のサポートをさせていただきます。お困りのことがあれば、気軽にご相談ください。

## 11月 お知らせ

■糖尿病教室 ※糖尿病が気になる方はどなたでも気軽にご参加ください。

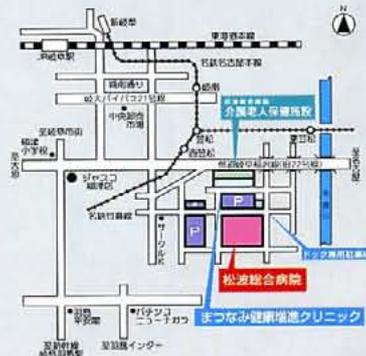
◎基礎コース… 7日(木)、14日(木)、21日(木)、28日(木)

3階講堂にて 午後2時～4時

◎秋の特別講演…10日(土) 3階講堂にて 午後2時～4時

◎毎週水、金曜日、5階病棟ダイールームにて 午後1時～2時

尚、都合により日時等変更する場合がございますのでご了承ください。



### 交通のご案内

新幹線羽島駅 — 西笠松 — 松波総合病院  
バス(電車利用) 徒歩10分  
タクシー-20分

名鉄岐阜駅 — 西笠松 — 松波総合病院  
名鉄電車(山田線) 徒歩10分  
タクシー-15分

名鉄名古屋駅 — 笠松 — 松波総合病院  
名鉄電車(豊田線) 徒歩15分